

令和2年度第2回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：令和2年12月22日（火） 10:00~11:30
2. 場 所：石川県庁14階 1407会議室
3. 出席状況：委員12名
4. 議 題：（1）令和2年度いしかわ森林環境基金事業評価報告書（案）
（2）石川県の森林・林業・木材産業について
5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）
 - 【委 員】今年度は金沢市の田上でクマの（人身）被害があったが、令和元年度に緩衝帯整備事業を実施した金沢市田上地区の箇所とは違う所か。
 - 【事務局】位置関係を調べて報告する。森林の見通しをよくすることで出没抑制の効果はあると考えており、引き続き整備を進めてまいりたい。※後日、違う箇所であることを確認。
 - 【委 員】地区への聞き取り調査の日付およびアンケート調査の回答人数を報告書に記載しておくとうい。
 - 【事務局】報告書に記載する。
 - 【委 員】石川県の森林や放置竹林の全体像をわかりやすく見せてほしい。
 - 【事務局】全体像がわかるような形で見せ方を工夫してまいりたい。
 - 【委 員】林業の人材育成は非常に重要であり、環境税で何か取り組めないか。
 - 【事務局】県に配分されている国の森林環境譲与税を活用し、森林バンク制度を運営していくための市町支援や、新規就労者の確保および林業就労者の技術向上のための研修など担い手育成を実施しているところであり、引き続き注力してまいりたい。
 - 【委 員】石川県での高性能林業機械の導入状況は。
 - 【事務局】県内に八十数台導入されており、労働強度の軽減や素材生産コスト低減につながる導入支援、現場の確保など、引き続き幅広く施策を進めてまいりたい。
 - 【委 員】クマの出没を減らすためドングリのなる木を植える取り組みを支援できないのか。
 - 【事務局】山にエサとなるドングリが増えればクマの生息数は増加すると思われるが、ドングリは豊凶の年変動があり、凶作になれば山が許容できる生息数を超えた分の出没が増える危険性もあると考えられ、ドングリを植えることが単純にクマの出没対策になるかは疑問がある。他方、森林には多様な生物の生息の場としての機能があり、環境税を活用して手入れ不足人工林を針広混交林にしていくことはその機能の発揮に貢献していると考えられる。
 - 【委 員】林業所得の向上等に向け、どう取り組んでいくのか。
 - 【事務局】林業経営に適した森林では、スマート林業など、収益を上げて自立的に成り立っていくような取り組みを進めてまいりたい。
 - 【委 員】地元の材の価値が上がるような取り組みを進めてほしい。
 - 【事務局】環境税を活用して「木づかい運動」を推進しており、木材産業の方とも連携しながら県産材に愛着を持ってもらえるような取り組みを進めてまいりたい。
 - 【委 員】荒廃した森林が整備され、また新しい森林へと循環できるよう、木造の建物が増え、県産材の需要が増えるような取り組みを進めてほしい。

【委員】子ども達が身近に木に触れられるよう、生活する施設や木のおもちゃなどの簡単に申請できる助成制度があるとよい。

【事務局】幅広い層の皆様に県産材に親しんでもらうためにできることを引き続き検討してまいりたい。